

## 第 43 期第 5 回理事会議事録

日 時：2024 年 12 月 17 日（火）13 時 00 分～16 時 15 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：青柳曉典, 荒川知子, 稲津將, 猪上華子, 今田由紀子, 江口菜穂, 榎本剛, 佐藤正樹,  
笹川悠, 杉本志織, 竹見哲也, 竹村俊彦, 立花義裕, 中村尚, 原田やよい, 早坂忠裕  
以上 16 名（理事総数 20 名）

欠席理事：阿部彩子, 堀之内武, 三好建正, 渡部雅浩 以上 4 名

出席監事：吉田聡, 川瀬宏明 以上 2 名

その他の出席者：勝山税, 福本昌史, 萬納寺信崇（事務局）

### 議 題

#### 1. 協議事項

##### 1) 会員の新規加入について

新入会員 16, 退会 15 を全会一致で承認した。2024 年 12 月 11 日現在, 会員数 3, 390 名で個人会員は 3, 198 名。

##### 2) 第 43 期第 4 回理事会議事録の確認

議事録案について, 全会一致で承認した。

##### 3) 気象学会の規程等の改定・制定について

日本気象学会細則の形式的な修正（第 47 条第 8 号で規定する松野賞について, 第 48 条第 1 項における「前条第 1 号ないし第 7 号」は「前条第 1 号ないし第 8 号」）, 日本気象学会が行う表彰の対象者として存命者に限ることについて理事会申し合わせとして明記すること, いずれについても, 全会一致で承認した。

#### 2. 報告事項

##### 1) WG からの報告

① 大会実施形態の移行に関する WG・・・以下の内容が報告・議論された。

- ・ 2027 年度から春季大会は JpGU と合同開催, 秋季大会のみ気象学会単独開催とした際の検討状況の報告がされ, 議論（秋季大会において大会行事は午後半日, 受賞記念講演は各日のランチタイムセミナーとして実施するなど大会期間中に分散実施で大筋合意の方向。研究発表の時間は口頭 15 分確保することは確定的だが, 口頭発表とポスター発表の振り分けはコンビーナーが行うというアイデアがあるものの抽選形式など機械的な割振といった別案もあって検討の余地がある）。更に WG 等でも検討を深め, 次回又は次々回理事会で議論して大筋でまとめる予定。
- ・ また, 大会開催に向けて、支部長或いは大会委員長に大会実行を依頼するこ

とについて、理事長より正式な依頼文書を今後の大会実行委員会に送付を始めており、今後は開催の 2~3 年前に送るようになりたいと理事長から報告があった。これに関連して、将来的には他支部と同様に関東支部の活動をしていくべきとの議論。

## 2) 業務執行理事の報告

### ① 「庶務」庶務報告(第 5 回)・・・以下の内容が報告された

#### ・ 掲載許可 (2 件)

##### 1) 申請者：株式会社 KADOKAWA 川田央恵

【掲載元】 Teruyuki Kato, 2024 : Interannual and Diurnal Variations in the Frequency of Heavy Rainfall Events in the Kyushu Area, Western Japan during the Rainy Season. SOLA, 20, 191-197  
掲載図： Fig. 3a, Fig. 4b

【掲載先】荒木健太郎著「すごすぎる天気の本 防災の超本」、発行者：株式会社 KADOKAWA (2025 年 2 月出版予定)

##### 2) 気象庁気象研究所 川端康弘

【転載元】著者：村木彦磨，タイトル：気象じょう乱と富士山レーダーによる降水エコー，掲載誌：天気 (1975 年)，22 巻 7 号，327-353 ページ。

掲載図：第 37 図 1965 年 8 月 22 日 10 時 37 分，PPI，レンジマーク 100km ごと，アンテナ仰角  $-0.6^{\circ}$

【転載先】図説 台風の事典，発行者 朝倉書店 (2025 年 6 月出版予定)

#### ・ 後援名義等使用依頼受付 (後援：3 件，協賛：1 件)

##### 1) 名称：第 9 回 WEATHER-EYE オープンフォーラム

主催：気象影響防御技術コンソーシアム

期日：2025 年 12 月 10 日

会場：お茶の水ソラシティ (オンラインのハイブリッド開催)

名義：後援

##### 2) 名称：原子力総合シンポジウム 2024

主催：日本学術会議総合工学委員会 原子力安全に関する分科会

期日：2025 年 1 月 20 日

会場：日本学術会議講堂およびオンライン

名義：後援

##### 3) 名称：第 39 回北方圏国際シンポジウム—オホーツク海と流氷—

主催：紋別市

期日：2025 年 2 月 16~19 日

会場：紋別市文化会館，紋別市立博物館，紋別市民会館等

名義：後援

4) 名称：第 30 回計算工学講演会

主催：一般社団法人 日本計算工学会

期日：2025 年 6 月 4～6 日

会場：ソニックシティ（さいたま市）

名義：協賛

- ・ 寄附者リスト（2024. 10. 2～2024. 12. 6）

1) 一般寄附金

なし

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された

- ・ 2024 年 9～11 月分の現預金検査
- ・ 流動資金(運転資金)の月ごとの推移
- ・ 第 16 回気象学史研究会の補助金申請

3) 委員会報告

① 「講演企画」・・・以下の内容が報告・議論された.

- ・ 2024 年度秋季大会の報告（「天気」2025 年 1 月号掲載予定）, アンケート結果のまとめ報告, それに対する質疑・コメント.
- ・ 講演企画委員会の活動状況について, 春季大会及び秋季大会の準備や問い合わせ対応に年中多忙であることが紹介された. これを受け, 大会実行委員との役割分担の明確化や確認, 引継資料の随時更新や共有について, 重要性や改善方法のコメントや議論.

② 「天気編集」・・・以下の内容が報告された.

- ・ 2024 年 10, 11 月号の掲載記事と, 12, 2025 年 1, 2 月号の予定記事.
- ・ 「天気」の冊子体は在庫があり, 実費払いが可能.

③ 「気象集誌編集」・・・以下の内容が報告・議論された.

- ・ Vol. 102, No. 6 (2024 年 12 月) と Vol. 103 No. 1 (2025 年 2 月) の掲載予定論文. 審査中の論文リスト.
- ・ 気象集誌の Springer への移行状況等の報告 (2025 年 1 月から Springer による投稿受付, 著者・読者の観点での変更点, 発行回数に係る日本気象学会定款の細則第 40 条第 5 項を必要な時期に改定予定, 収支が黒字化する見通し). もし黒字化に向けて出版物配布を見直す場合は同細則第 9 条 (会員特典の出版物無償配布) 改定のため総会に諮る必要がある旨コメントがあった.
- ・ 掲載料免除申請 1 件

④ 「SOLA 編集」・・・以下の内容が報告された.

- ・ 論文投稿・公開状況
- ・ 特別号企画

- ✓ 「豪雨をもたらす停滞性降水系—線状降水帯—研究の新展開」(Vol. 20A)
- ✓ 「高性能スーパーコンピュータを用いた大気科学の最前線」(Vol. 20B)
- ・ 2024年10～11月の掲載論文：13編
- ⑤ 「気象研究ノート編集」・・・以下の内容が報告された。
  - ・ 第249号「令和元年房総半島台風と東日本台風」2024年12月下旬発行予定。
- ⑥ 表彰関連・・・以下の内容が報告・議論された。
  - ・ 「岸保・立平賞」候補者が提示され、推薦理由について確認を行った。
  - ・ 「正野賞」10/15選定完了、推薦文を準備中。
  - ・ 「松野賞」2024年度秋季大会で候補者144名のエントリー、厳正な審査・選考の結果、33名に授与を決定。

また、松野賞受賞者選定規程について、次の秋季大会から口頭発表を申請した学生を審査対象とすることや審査に関する情報の取扱等を明確化する改定案を議論し、修正したうえで2025年6月1日施行することを全会一致で承認した。今後の口頭発表とポスター発表の割振とあわせて、引き続き具体的運用を検討する。

  - ・ 「部外表彰等」2024年度「第45回猿橋賞」に気象学会から1件推薦した。
- ⑦ 「学術」
  - ・ 「気象学の現状と展望」は校正等完了、天気1月号に掲載見込み。
- ⑧ 「気象災害」
  - ・ 気象庁との連携という従来路線を引き継ぎつつ、災害級の気象現象を世に知ってもらうため、マスコミ、自治体との連携を深める委員追加を検討。
- ⑨ 「教育と普及」・・・以下の内容が報告された。
  - ・ 第3回気象サイエンスカフェ「金星の気象の不思議」10/14実施。
  - ・ 地学オリンピック配布冊子「地球にわくわく未来ガイド」に広告(無料)。
  - ・ 公開気象講演会「気象を通じて社会に貢献する」11/17実施。
  - ・ 気象学会ジュニアセッション、2025年度春季大会はオンライン参加者に認定証を発行、希望者は追加でポスターセッション。2027年度以降は基本的にJpGUに参加、中学生の参加を認めてもらう方向で交渉を予定。
  - ・ 先生のための気象教育セミナー「身近な材料を使った実験教室」、2025年1/12(日)みなと科学館で実施予定。
- ⑩ 「気象研究コンソーシアム」・・・以下の内容が報告された。
  - ・ 気象研究コンソーシアム運営員会で共同研究契約書を10月25日に更新。
  - ・ 春季大会の専門分科会で隔年開催してきた「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」の申込を失念、秋季大会での開催を検討中。
- ⑪ 「人材育成男女共同参画」・・・以下の内容が協議・報告された。
  - ・ 雇止めに関する緊急アンケートを受けた学会の提言案を1/10(金)まで

に確認し、理事長名でホームページ掲載することについて協議、全会一致で承認した。

- ・ 第43期第2回人材育成・男女共同参画委員会を11/8に開催
- ・ 委員会補助金申請書（委員会HP改修作業のためのアルバイト請求）
- ・ 女子中高生夏の学校(8/10-12)参加報告
- ・ 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム10/12開催
- ・ 秋季大会時のイベント報告
- ・ 保育支援ガイドライン改訂
- ・ 全学会員向け仕事・研究環境アンケートフォーム準備、年度内に実施予定

⑫ 「広報委員会」・・・以下の内容が報告された。

- ・ J-NACS サイト公開を11/6周知、11/7にバナー設置。
- ・ metsoc.jp や metsoc.or.jp からのメール配信が円滑に行えるよう、12/1に送信元偽装対策を強化（SPFに加えて、DKI, DMARCを設定）。
- ・ 11/12に過去の一部動画が再生できないとの会員指摘を受け、調査・対応。
- ・ 12/14に第4回小倉特別講義の動画を公開。

#### 4) 理事長報告

- ・ 1/27開催されたJpGU第10回学長会議の報告（JpGUフェロー募集中、関連学協会から事務局機能請負に係るJpGU事務局への検討依頼がされたが現時点難しいこと、JpGUの2026大会がAGUとの共同開催になることを見据えて2025大会の発表スライドは全て英語とすること等）。
- ・ 11/18-20日中韓気象学会（ACM）2024開催。日本気象学会の150周年記念は2032年であり、その時にACMを主催できると良い。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2025年1月30日

公益社団法人日本気象学会

理事長 竹見 哲也

監 事 川瀬 宏明

監 事 吉田 聡